

日本赤十字九州国際看護大学学術情報リポジトリ

タイトル	国際医療協力の現実と将来
著 者	喜多悦子, 吉武克宏, 青山温子, 金川修造, 安藤聖子, 小松契, 清水真由美, 實吉佐知子
掲載誌	民族衛生, 62(appendix) : pp 30.
発行年	1996.11
版	publisher
U R L	http://id.nii.ac.jp/1127/00000206/

<利用について>

- ・本リポジトリに登録されているコンテンツの著作権は、執筆者、出版社(学協会)などが有します。
- ・本リポジトリに登録されているコンテンツの利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用などの範囲内で行ってください。
- ・著作権に規定されている私的使用や引用などの範囲を超える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。
- ・ただし、著作権者から著作権等管理事業者(学術著作権協会、日本著作出版権管理システムなど)に権利委託されているコンテンツの利用手続については各著作権等管理事業者に確認してください。

国際医療協力の現実と将来

喜多悦子*, 吉武克宏, 青山温子, 金川修造**
 安藤聖子, 小松 契, 清水真由美, 實吉佐知子***
 国立国際医療センター国際協力局派遣協力課
 課長*, 医師**, 看護婦***

第二次世界大戦敗北後のわが国は外部社会から多大な支援を受けたが、1980年代には為替相場の変動にも助けられ急激な対外援助資金増を達成し、数年来、世界最大のドナーの地位を保っている。保健医療協力は、人道的見地のみならず戦争放棄を謳う平和憲法を持つわが国に相応しい対外介入として積極的に進められてきた。しかし宗教伝道や近世の植民地経営など、動機は異なるが、近世以来、未知の地域への保健医療にも目を向け、また、当該分野の専門家養成にも手を染めてきた欧米諸国の保健医療開発協力とは異なるものに終始してきたといえよう。すなわち、わが国の開発協力は戦後賠償を相殺する形で始まったこともあってアジアに重点が置かれてきたこと、(見返りを求めない)無償部分を増加させるための大型施設建設が積極的に行われた時期があったこと、量的拡大と人材育成が伴わなかったことなど、各種の問題をはらみつつ経過してきたといえる。

保健医療活動は、一面、手技手法の標準化と共に高い専門性を備えるべき分野ではあるが、本来、それぞれの国、地域、民族、社会の持つ文化、伝統習慣、歴史あるいは経済発展の程度などと切り放しては成り立たない。わが国の国際協力はその拡大とともに質的向上の必要性が指摘されている。保健医療分野に限っていえば、医療以前の問題ともいえる一定の品質を保障された水や電気、ガスが恒常的に補給されておらず、当然、公衆衛生環境も不備な国、地域で行いうる適正な医療技術の移転拡大に徹する姿勢が必要なことは言うまでもない。しかし、国民一人当たりの総生産(GNP)が数百ドルにも満たない国々での保健医療協力は、単にそのような技術レベルやあるいは開発協力という概念を知っているという範囲で済む問題ではない。人々の生き様を対象とする文化的総括的配慮を伴う、かつ、時間の掛かる仕事であるといえよう。

冷戦構造終結後の世界はかつての思想的対立から宗教や民族性を含む文明の衝突(S. ハッチンソン)が頭になっているといえるが、ここでは、1986年10月、長期間途上国に滞在し保健医療協力に当たる専門家集団として設置された国立病院医療センター国際協力部(当時)以来、国立国際医療センターが行ってきた各地(ボリビア、ブラジル、パングラデシュ、ネパール、タイ、カンボジア、ラオス、ベトナム、中国、パキスタン、イエメン、エジプトなど)の経過から、例として、妊娠、分娩、保育などを含む reproductive health にかかわる現状と将来の展望を述べる。すなわち、現在では、施設であれ自宅であれ分娩は清潔な環境下に行われ、産褥期には母児とも一定レベル、期間の適切なケアが与えられ、児は母乳(もしくは人工栄養)から離乳食を経て次第に普通食に移行すること、また、特に乳児では清潔なおしめや衣服が使用されることなど、わが国では常識的な妊娠分娩育児は途上国の多くでは適応されていない。

このような状況に対して、いかなる保健医療協力を行うべきか、誰が、何時、如何なる意思決定を行うかに関して、参加型協力など様々な開発理念が打ち立てられているが、あくまで、外部介入者の視点が基本になっているともいえる。しかし、開発協力をひとつの分野と見るならば、特定の国のみに該当する方法ばかりでなく普遍性を持った理念も必要であり、この点に関して、社会文化的視点が必要であるが、これまで行われてきた各国の無数の国際協力プロジェクトが無理なく緩やかに日常生活の中に根付いてゆけない理由などを実際の例から示し、今後の展望を考察したい。